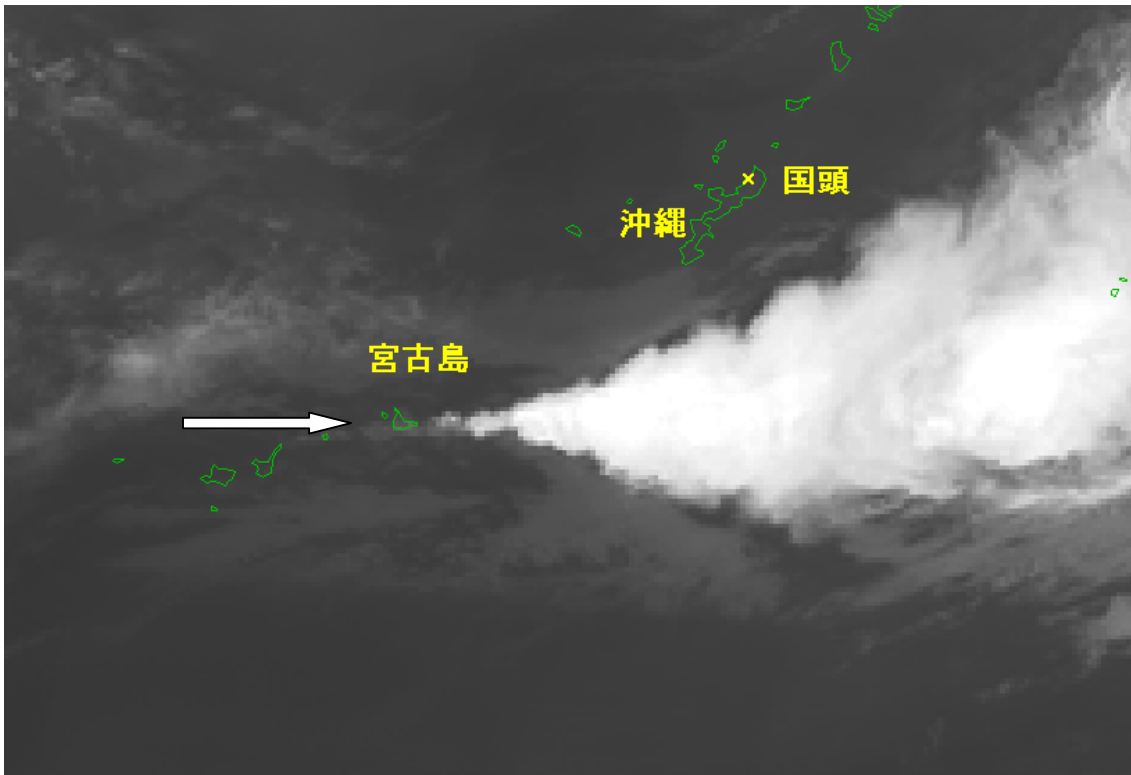


# 今月の気象衛星画像 (2006年4月)



2006年4月11日20時の赤外画像

## テーパリングクラウド Tapering cloud

激しい気象現象を伴う積乱雲の多くは、矢印で示している雲域のように、風上端が尖り風下側に広がった形状となる。このような形状の積乱雲域をその形状から「にんじん」状積乱雲域（テーパリングクラウド）と呼んでいる。一般的には主に海上で、低気圧中心付近や前線近傍・暖域に発生することが多い。

画像は4月11日20時の赤外画像である。宮古島の東から沖縄の南海上にかけてテーパリングクラウドが広がっている。この雲域は赤外画像から白く輝度の高い塊状となっているため発達した積乱雲である。この積乱雲域は中、上層風によって流され風下側では白く輝度温度の低い滑らかな巻雲域が広がり、一方、風上端の部分では、下層の収束と暖湿気の流入により新たな雲を発生・発達させて風上側に伸びている。

このテーパリングクラウドは12時間前には宮古島の北の海上から沖縄本島付近にかかる積乱雲域であり、沖縄県国頭では8時までの1時間に54mmの非常に激しい雨を観測した。

このように、テーパリングクラウドは豪雨、突風、雷、降雹などの気象現象を伴っているので、十分に警戒しなければならない。

(気象衛星センター)